

# ポロニア

ポロニアは県花「桐」の学名です。

発行／岩手県高等学校PTA連合会

〔事務局〕盛岡市上田三丁目2-1

TEL (019) 625-6386

E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp

FAX (019) 613-7795

## 平成29年度 県高P連 定期総会・研究協議会開催

岩手県高P連「平成29年度定期総会・研究協議会」が6月7日、盛岡市のサンセール盛岡で開催されました。県内66校から単位PTA会長・副会長、校長、事務局長など270人が出席。今年度の事業計画・収支予算などが審議されました。

渡辺正和会長は「今年度は7月6・7日に第66回東北地区高P連盛岡大会（以下盛岡大会）が開催される。参加者の心に残る大会となるよう力を合わせましょう」と呼びかけました。議事に先立ち表彰状の贈呈が行われ、PTA活動で功績のあった個人90名、単位PTA3校、第21回広報紙コンクール入賞校8校に表彰状が手渡されました。全受賞者を代表



▲PTA活動に尽力された皆様

して木戸口春彦、軽米高校PTA会長は「受賞は校長をはじめめ担当の先生方、会員のおかげであり、また活動を通じて知り合った他校PTAの皆さんのおかげです」と謝辞を述べました。また現役役員に向けて



▲岩手県高P連 渡辺正和会長

今年度の活動方針・事業計画は昨年度の被襲しながら、東日本大震災の被災校・被災者支援の積極的推進、復興教育の取り組みを進めること、また盛岡大会成功に向けて「一丸となつて取り組むこと」などが盛り込まれました。平成29年度一般会計予算案では、会員数クラス数の減少に伴い、収入の部が昨年度比20万7千558円減、支出では昨年度不足が指摘された

「皆さんも是非楽しみながら活動してほしい」とエールを送りました。表彰式に続き来賓の高橋嘉行岩手県教育長、川上圭一県高等学校長協会会長、五十嵐のぶ代県PTA連合会会長が祝辞を述べました。議事では平成28年度会務収支決算の報告、平成29年度役員選出、活動方針・事業計画・収支予算案の審議に加え、特別助成費の申請や盛岡大会についてなど7議案が協議され、いずれも原案どおり承認されました。役員人事は渡辺正和会長が再任されたほか、副会長その他についても原案どおり承認されました。

項目の増額などが盛り込まれた原案の通り承認されました。

また今年度も特別助成費を各5万円を上限に設定。単位PTA事業活発化のための活用を呼び掛けました。最後に、盛岡大会用に高校生がデザインしたエンブレムデザインと、スタッフが着用するTシャツのお披露目があり、大会に向けた機運を高めました。

総会に続き行われた研究協議会では「いじめ問題をとりまく現状」と題して、県教育委員会事務局学校調整課の菊池広親首席指導主事兼生徒指導課長が具体例を交えながら解説しました。

いじめにより自死に追い込まれる生徒が後を絶たない中、「自死は絶対起こさず、生徒同士が互いの人権を尊重し合うよう指導すること



〈講演〉  
演題「高等教育と法」  
講師  
弁護士  
小笠原基也氏  
（前岩手弁護士会会長  
もりおか法律事務所）

総会ののち、弁護士の小笠原基也さんに「高等教育と法」と題して講演をいただきました。その一部を紹介いたします。

教育の目的は「人格の完成」ですが、それは時代や国によって変化します。その根本には「憲法」があり、憲法の全体を見て初めて分かります。

憲法の根本原理は「個人の尊重」



▲研究協議「いじめをとりまく現状について」を語る岩手県教育委員会 菊池広親様

が求められる」と強調。

一方PTAの役割にも期待を寄せました。「いじめの防止等のための基本的な方針の改定について」国では「保護者及び地域に対する周知として、PTAの協力を得ることが明記されました。菊池氏は「いじめゼロを追うのではなく、学校PTAが一丸となつて、いじめ行為自体を許さないという『雰囲気・風土づくり』をすることこそが大事ではないか」と結びました。

### 〈講演〉 演題「高等教育と法」

（二三条）です。つまり「その人がその人らしく成長し、いろいろな場面で活躍すること」です。自分の意見を言う、他人の意見を聞くという大前提が、正しい情報です。

しかし初等教育から高等教育を修了するだけでは不十分です。そこで得た知識をどう使っていくかという思考力や想像力が大切になつてきます。

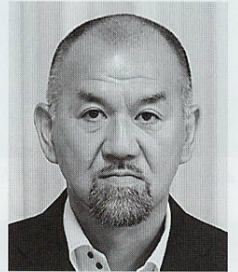
中学・高校・大学のうちに感受性を養い、想像力と思考力を伴った知識は人格を育みます。



# がんばる岩手

第12回

岩手県立大槌高等学校PTA会長 伊藤 幸人



いる子どもの育成を掲げ取り組んでおります。

本校のPTA活動は、広報、研修、交通安全、母親の四つの委員会で活動し、母親委員会ではクラスマッチでのカレー提供や文化祭での食堂運営に取組み、子供たちや先生方、文化祭では来場者にも大変喜ばれました。広報委員会では家庭でのあいさつ運動の取組みの推進、研修委員会では文化祭でのPTA展示の企画や研修旅行を行っています。昨年度は小岩井農場内をバスで巡り、貴重な建造物等を見学しました。交通

本校は、平成三十一年に創立一〇〇周年を迎える学校で、「あいさつと整容」がしっかりと

安全委員会では、新しくできた通学路での交通安全指導を行いました。どの活動も、参加される方々が楽しく出来ることを目指して取り組んでいます。これからも子どもたちが安心・安全な学校生活が送れ、二年を通して楽しめるよう、また保護者の方々が気軽にPTA活動に参加できるような環境を作っていきたいと思っています。

最後になりますが、東日本大震災津波から六年がたち、未だ仮設住宅で生活している家庭もありますが、皆様の温かいご支援により、子どもたちも勉強やクラブ活動などに活き活きと取り組むことができています。これも多くのご支援のおかげと感謝しております。この場をかりて御礼申し上げます。



▲母親委員会



▲クラスマッチカレーサービス



▲研修旅行



▲登校時一声運動



▲クラスマッチカレーサービス



▲文化祭

## 請求なければ支払いなし

### (一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA単位で加入する制度で発足後16年目となりました。  
 〈加入状況〉全国 2,175校 1,290,537人  
 岩手県 68校 27,641人  
 〈事故の際は〉全国高P連賠償責任補償制度事故受付電話  
 0120-119-110

### 岩手県高P連高校生総合保障制度

〈加入状況〉  
 Aプラン(病気補償あり) 63校 2,313人  
 Bプラン(病気補償なし) 60校 519人  
 Cプラン(自転車重点型) 62校 1,091人  
 (平成29年5月10日現在)  
 〈引受保険会社〉 AIU損害保険株式会社盛岡支店  
 TEL019(653)1411

## おらほのPTA



▲「伊高祭」フードコート



▲環境整備事業(花の植栽)



▲「九戸まつり」流し踊り

その他の活動として、総務、調査広報委員会は年二回のPTA会報発行や環境整備事業(花の植栽)、健全育成委員会は年二回の朝の登校指導や九戸まつり巡回指導、母親委員会はクラスマッチに豚汁提供など、様々な場面で生徒を励まし、見守っております。

四つの地区で地区PTA懇談会を開催し、地区の会員の親睦を図るとともに、春には「山菜の会」、秋には「茸の会」、教職員の歡送迎会や行事ごとの反省会など、交流の機会を大切にしています。

また、「九戸まつり」では、PTA主導で生徒とともに流し踊りに参加、PTA特製山車や仮装が大好評を博し、高校生に戻った気分を楽しみました。

本校は、平成三十一年に創立七十周年を迎えます。これからも、生徒たちが地域に支えられ地域とともに健康やかに成長できるよう、PTA活動を行っていきたいと思っております。

## 地域の協力と共に

岩手県立伊保内高等学校  
PTA会長  
本堂 友明



本校は校訓「努力・創造・明朗」のもと地域を支える人材を育成しています。保存会の指導を受け郷土芸能委員会が全国大会出場を果たすなど、地域とともにある学校です。

本校のPTA活動で最も特徴的なことは、学校の文化祭「伊高祭」に、学校の共催という形で参画していることです。フードコートやバザー、駐車場整理など、準備段階からPTA一致団結して生徒の活動を強力にサポートします。

# 第66回東北地区高P連盛岡大会開かれる



▲研究発表する平舘高校PTA橋本光幸会長



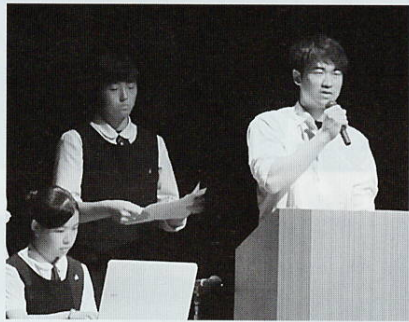
▲全国高P連 木戸浩久専務理事



▲大会会長 渡辺正和ごあいさつ



▲盛岡二高 吹奏楽部



▲盛岡一高 医療研究班によるSG課題研究発表

7月7日(金)盛岡市民文化ホールにおいて、第66回東北地区高P連盛岡大会が開かれました。県内はもとより東北各地より1500人もが皆様にお集まりいただきました。盛岡一高放送委員会の詩の朗読で幕が開き、開会式、研究協議に続いて、毛越寺 貫主 藤里明久様の講演がありました。また、高校生の発表や演奏も素晴らしく、大会終了後も事務局に感動の声が寄せられています。

関係諸機関の皆様、スタッフとして運営に携わってくださった方々、誠にありがとうございました。引き続き、次号ポロニーナ39号には盛岡大会に参加された方のお声を掲載する所存です。



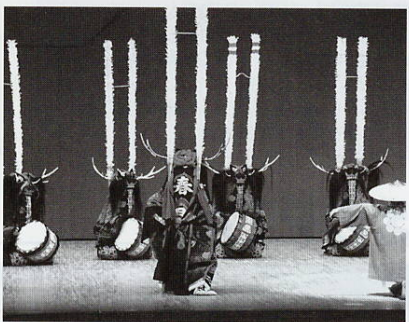
▲毛越寺 貫主 藤里明久様



▲盛岡四高 音楽部



▲来年夏、郡山で会いましょう  
福島県高P連の皆様と「がくとくん」のごあいさつ



▲花巻農業高校 鹿踊り部

## 編集後記

花巻マルカン食堂の本年2月の再開は、マスコミにも取り上げられ、その経緯を記した書籍も発行されたのでご存知の方も多いと思う。人気の高さ25cm10段巻きソフトクリーム、何よりも昭和レトロの雰囲気がいい。昨年6月、従前の事業会社は設備の老朽化、建物耐震問題等の理由から惜しまれながら百貨店を閉店した。その3か月前、閉店発表直後からいち早く存続に向けて立ち上がったのが、地元の高校生7人だった。フェイスブックページを立ち上げ自主的に署名活動を始めたのだ。署名活動の許可交渉や存続に否定的意見等々困難な事もあったが、校長先生、担任教師のサポートもあり、2か月半で1万人弱の署名を集め大きな反響を呼んだ。当時事業引継を検討していた会社へ引き渡し、その後の復活への道を後押しする効果は絶大だった。

彼ら高校生が得たものは、地域社会にマルカン食堂復活のムーブメントを起こして社会から受け入れられたことの満足感・達成感だろう。このことは「高校生は社会の一員であり貢献できる」ことを証明してくれている。さて、我々大人は地域社会に何ができているのだろうか。高校生に教えられた感がある。

(調査広報副委員長 金澤秀晃)

### 〈編集委員〉平成29年度調査広報委員

委員長 高橋 輝彦(西和賀)  
副委員長 金澤 秀晃(花巻北)  
委員 長澤 由子(雫石)  
鈴木 圭(大東)  
藤井 勉(釜石商工)

### ◇事務局

杉村 文枝(西和賀)  
高橋 秀幸(県高P連)  
木村 智子(県高P連)